



青南だより

令和2年7月号

港区立青南幼稚園
園長 新山 裕之

＜園と家庭で連携して自立を促す＞

靴の履き替え、身支度、手洗い、トイレなども身辺自立は、集団生活の前提です。とは言え、特に年少児は、月齢や経験の差が大きいのが現実です。それぞれの実態に合わせて、今できているところから、一つずつ自立を促すことをしていきます。ただし、それには家庭と園の協力が不可欠です。園では、先生や友達の動きがモデルになり、先生が価値付けます。家庭で身に付けさせるにはちょっとしたコツがあります。折に触れてお知らせしていきますので、焦らずに一緒に支えていきましょう。

＜自然との関わりを通して育つ優しい心＞

青南幼稚園の自然の豊かさは、何度もお伝えしていますが、簡単に見付けられる物ばかりではありません。月刊絵本もきっかけになり、年長児は虫探し熱が高まっています。それにつられて自然に関心を寄せてくれている大人も増えています。ジャガイモ畑に隠れていたアズマヒキガエルの様子を見るのを楽しみにしている地域の方々もいます。初めて見付けたキマダラカメムシは成虫だけでなく、卵とその周りにきれいに並ぶ幼虫をホームページでも紹介しました。生き物との関わりは、人の心を癒やし、他者への思いやりの心を育んでくれます。

＜多様な学びとそれを支える指導の工夫＞

草花から色を作り出すことは、全く経験のない子どもにとっては、大発見なのかもしれません。自然との関わりは多様な遊びや学びを生み出しますが、そこでのねらいによって用意する教材や出会わせ方が変わってくるのです。ジャガイモを育てて収穫しましたが、その過程で子どもたちに経験させたかったことは実に多様でした。生長への期待と仲間との共有、科学的思考、収穫時には数についての関心、分配の際には他者への思いやりなど。幼稚園教育が総合的であると言われる所以です。

・・・文月（ふみづき）・・・

小暑（7日）…七夕飾りに願いを託します…

大暑（22日）…梅雨が明けると夏本番です…

4月からぶっちゃんと背比べをしていた竹は、もう4メートル近くの高さになっています。七夕には青南小学校からいただく竹と園の竹をうまく使っていこうと思っています。今年は、梅の実は二つだけでしたし、アンズも業者による剪定の時期が悪かったようで、収穫は期待できません。その代わりに、ザクロやブドウ、裏庭の柿には今から期待がもてます。どうぞお楽しみに。

青南の 二十四節気



小さなことでも自分でできると自信になります



きれいに並ぶキマダラカメムシの幼虫
真ん中は抜け出た卵の殻



園庭で美しいタマシを大発見！！



みんなで掘ったジャガイモは
数えてみると大小合わせて340個！



保育後の消毒はスタッフ総出の仕事です